

川崎市の財政状況

平成25年3月21日



川崎市



目次

1 川崎市のポテンシャル

2 財政の現状分析

3 行財政改革の取組

4 川崎市債の管理

1 川崎市のポテンシャル

- (1) 川崎市のロケーション
- (2) 元気都市かわさき
- (3) 川崎市に立地する世界的企業と研究開発機関
- (4) 環境技術で国際貢献
- (5) 川崎市における成長戦略の拠点
- (6) 「キングスカイフロント」における国際戦略拠点の形成
- (7) 新川崎・創造のもりにおける先端研究開発拠点の形成
- (8) 高い利便性と魅力と活気にあふれるまち
- (9) 川崎市の中長期的なまちづくりの方向性



川崎市のロケーション

首都圏の好位置にある優位性
道路・鉄道・空港など交通利便性の高さ

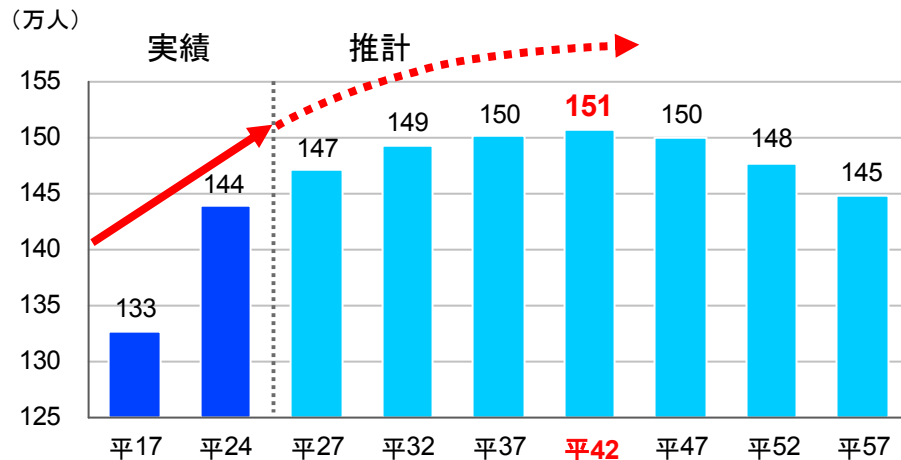




元気都市かわさき（1）

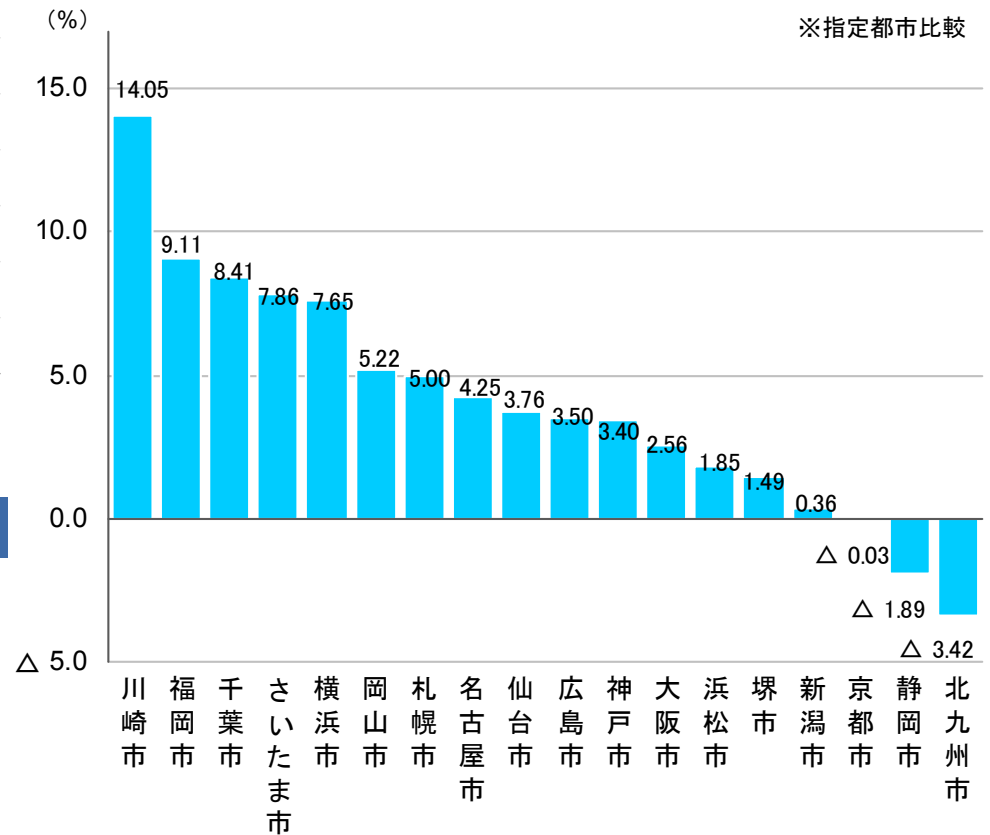
若い世代が支えるエネルギーあふれる都市

人口の増加状況と将来推計

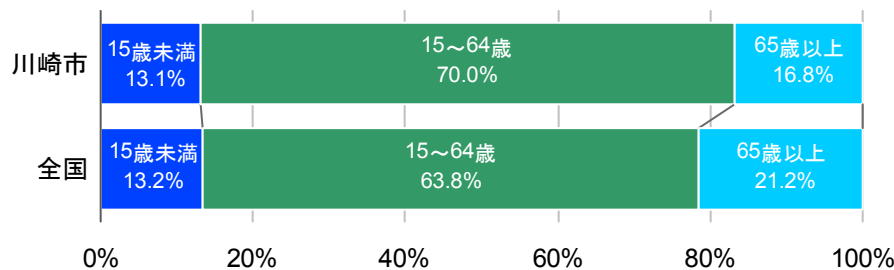


出典：川崎市将来推計人口調査

10年間の人口増加率は他都市を大きく上回る 出生率1位(21年連続※)、婚姻率1位(26年連続※)



年齢構成からみる人口



出典：川崎市年齢別人口ー平成22年10月1日ー

平成12年、22年国勢調査に基づき川崎市が算定
※は大都市比較統計年表(平成22年)

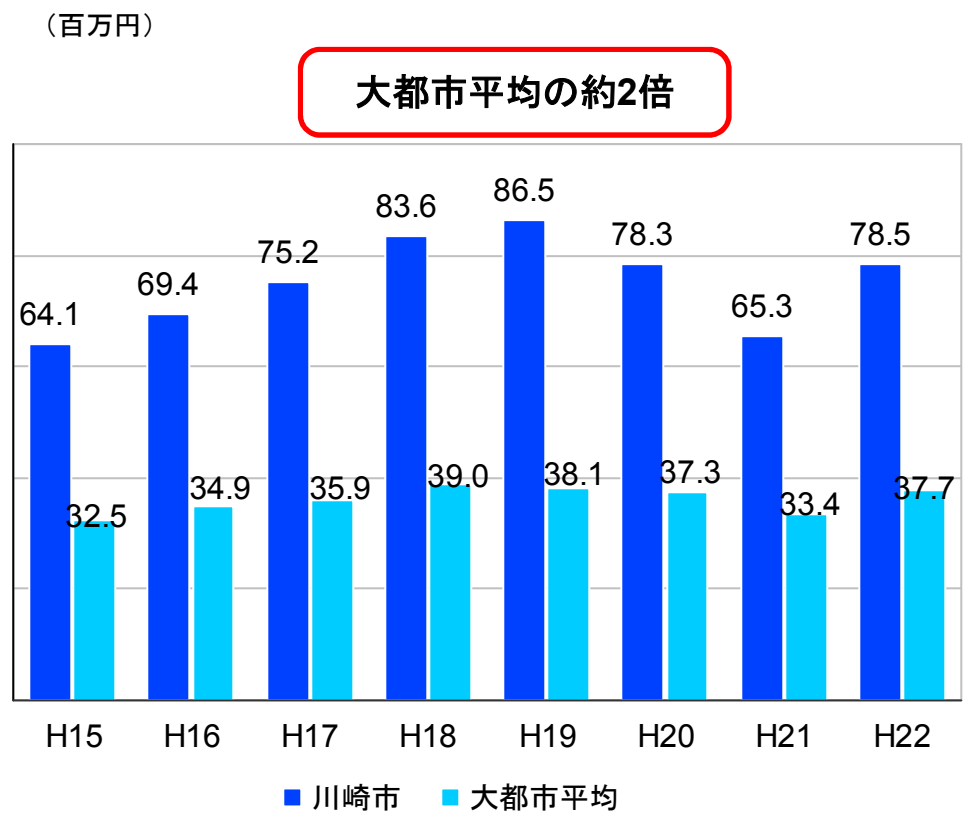
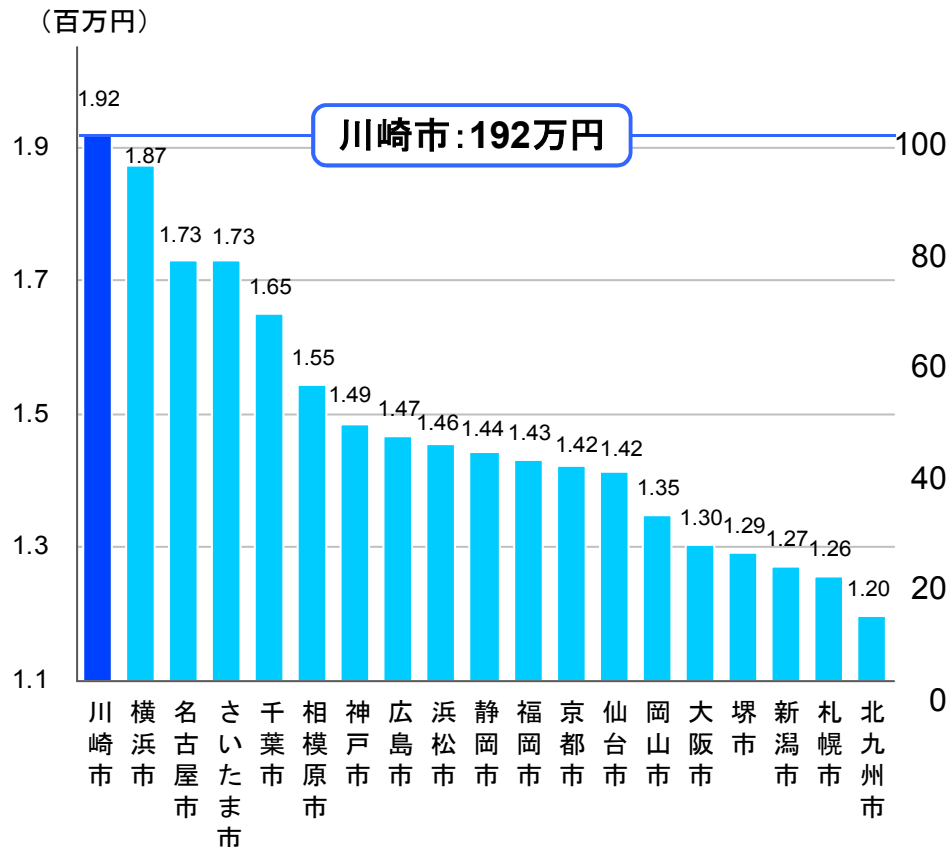


元気都市かわさき(2)

良好な財政状況を継続しており、人口1人あたり課税対象所得額は指定都市トップ

人口1人あたり課税対象所得額

従業者1人あたり製造品出荷額等



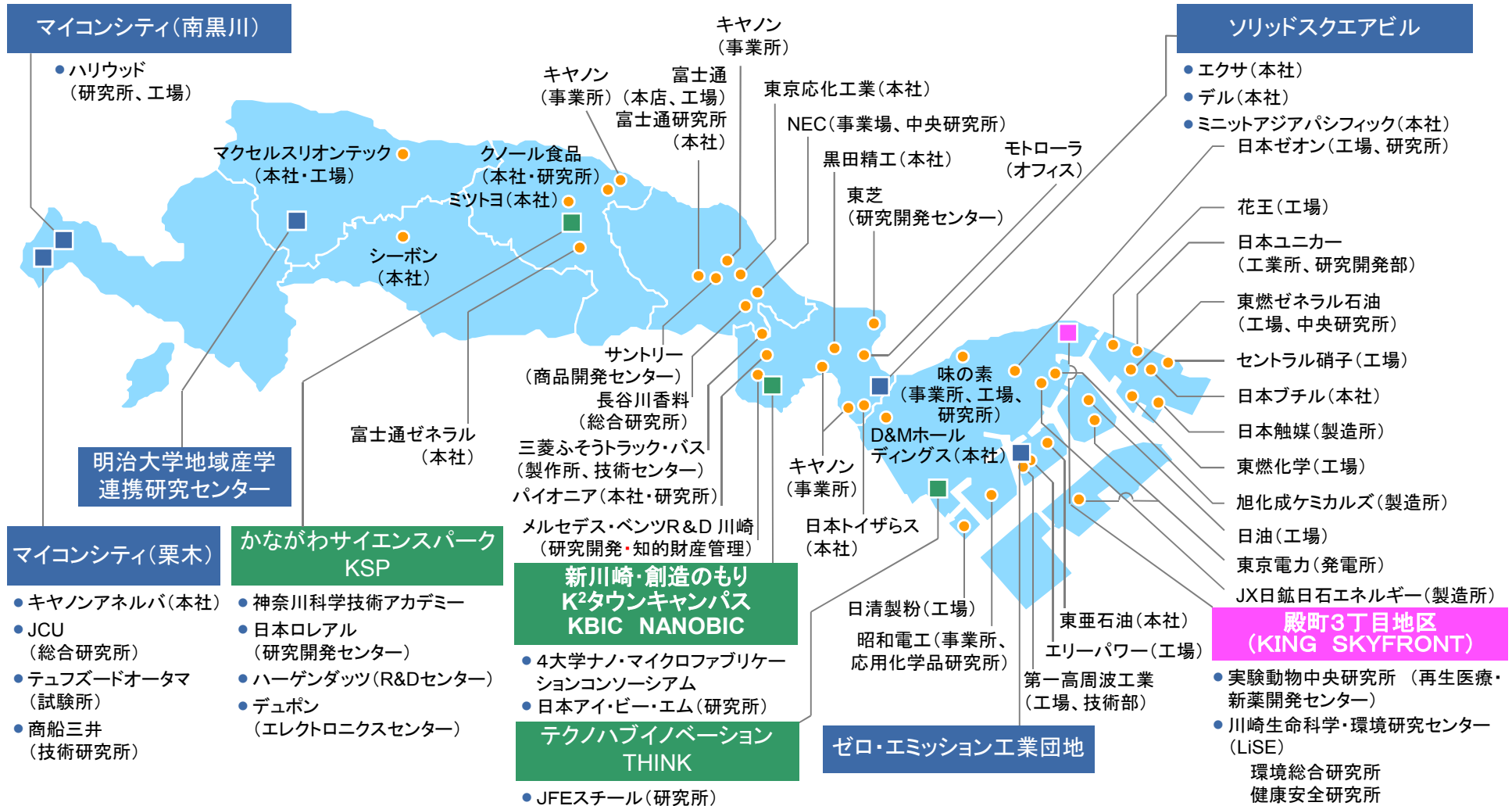
※2011年度市町村税課税状況等の調、決算カードに基づき川崎市が算定

出典: 大都市比較統計年表(平成22年)



川崎市に立地する世界的企業と研究開発機関

200以上の研究開発機関が立地し、研究者・技術者が集結





環境技術で国際貢献(1)



「環境」と「経済」の好循環を推進、持続可能な社会を地球規模で実現

公害問題を克服



1960年代川崎の空

現在

公害対策の成果

環境技術の蓄積



ゼロエミッション工業団地



高効率空調蓄熱システム

大型リチウムイオン蓄電池量産工場

地球温暖化対策の必要性

- IPCC(気候変動に関する政府間パネル)第4次報告 気候システムの温暖化には疑う余地がない。



ヒマラヤの水河
1978年5月



2004年8月

川崎の特徴・強みを活かした地球温暖化対策

- H21 川崎市地球温暖化対策推進条例制定
 - H22 川崎市地球温暖化対策推進基本計画策定
- 2020年度までに、1990年度の市内の温室効果ガス排出量の25%以上の削減をめざす。

公害問題を克服する過程で培われた高度な環境技術を活用

1 国内外に情報発信



川崎国際環境技術展
平成24年2月開催
136団体226ブース13,500人来場



環境啓発施設「かわさきエコ暮らし未来館」が平成23年8月オープン(浮島太陽光発電所も同施設の見学ルート。開館1年で2万2千人の来場)

2 スマートシティの構築

■ スマートシティ構想の策定

市内で有する最先端の環境技術などを活かした構想策定を推進

■ モデル事業の推進

川崎駅周辺地区、富士見周辺地区、臨海部地域など



3 地球温暖化への国際的な対応

■ 川崎メカニズムの構築

川崎市内で研究開発や製造された製品・技術等によるライフサイクル全体を通じた市域外での温室効果ガスの削減貢献量を評価・認証

■ 低CO₂川崎ブランド事業の推進

ライフサイクル全体でCO₂削減に貢献する川崎発の製品・技術等を評価・普及促進

■ 川崎市環境総合研究所の開設

殿町キングスカイフロントの川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)内に平成25年2月開設
低炭素社会・循環型社会の形成に繋がる川崎の優れた環境技術の更なる研究

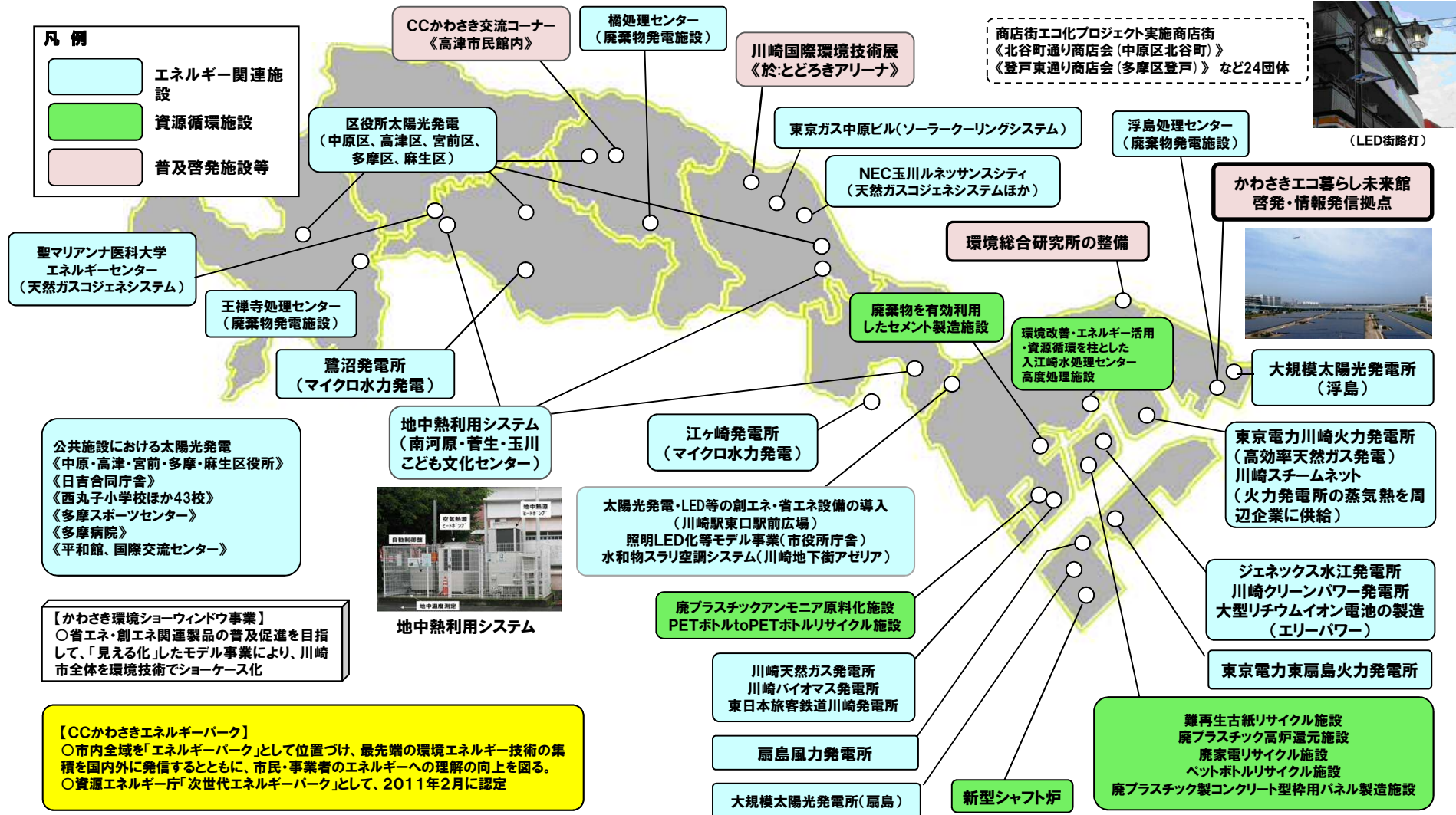


川崎の優れた環境技術による
産業振興・温室効果ガスの削減・国際貢献



環境技術で国際貢献(2)

川崎のまち全体で環境技術のショーケース化を推進





川崎市における成長戦略の拠点

川崎臨海部の国際戦略拠点「キング スカイフロント(Kawasaki INnovation Gateway at SKYFRONT)」でのライフサイエンス分野での研究開発、「新川崎・創造のもり」でのナノ・マイクロ技術の研究開発、国内有数の国際貿易港、公害を克服した環境技術の集積など、川崎の強みを生かした成長戦略を推進

「新川崎・創造のもり」

ナノ・マイクロ技術をはじめとした先端技術の産学官連携による研究開発拠点

「キングスカイフロント」

「ライフイノベーション国際戦略総合特区」に指定された、ライフサイエンス分野における国際戦略拠点



エネルギー供給拠点・環境技術の集積

臨海部に立地する首都圏を支えるエネルギー供給拠点と、市域全体に集積する最先端の環境技術

港湾物流拠点

横浜港・東京港とともに国際コンテナ戦略港湾に指定された国内有数の国際貿易港
国内最大級の冷凍冷蔵倉庫群が立地



「キングスカイフロント」における国際戦略拠点の形成

羽田空港の対岸に位置する「キング スカイフロント」(約40ha) にて、再生医療、がん・生活習慣病、公衆衛生・予防医学など、今後成長が期待される分野において、革新的医薬品・医療機器の開発・製造と健康関連産業の創出をめざす

＜第1段階整備＞・・・①

平成23(2011)年7月
「実中研 再生医療・新薬開発センター」運営開始



- ・慶應義塾大学医学部 岡野教授による先端医療開発の推進
- ・再生医療による脊椎損傷やアルツハイマー治療などの先端医療の実現
- ・革新的な医薬品・医療機器の研究開発



超免疫不全マウスを開発

NOGマウス/ヒト化マウス



「nature」
2009.5.28号

コモンマーモセット

＜第2段階整備＞・・・②

平成24(2012)年12月竣工
川崎生命科学・環境研究センター「ライズ」
(Life Science & Environment research center)

施設概要

敷地面積:約7,000㎡
延べ床面積:約11,400㎡



平成25年3月
開所

「レンタルラボ」
(KAST、(株)エスアールエル等)

4階

「環境総合研究所」
(プロジェクト研究室、分析室等)

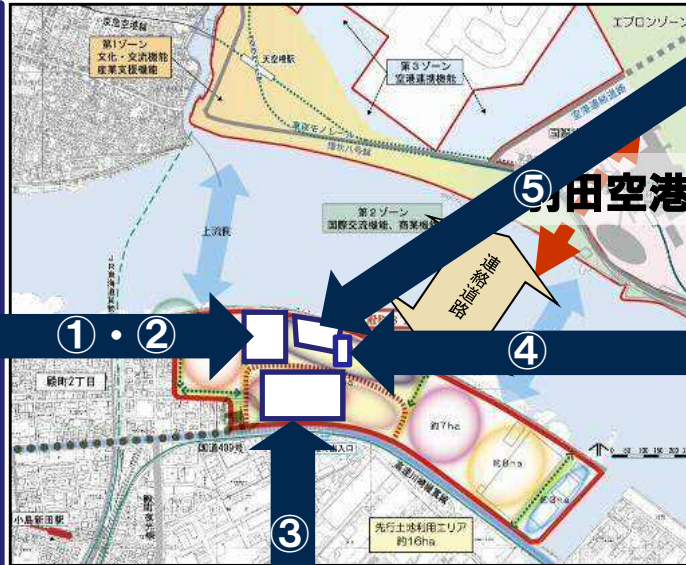
3階

「健康安全研究所」
(検査室、実験室等)

2階

「共用施設」
(川崎市海外ビジネス支援センター(KOBS)等)

1階



(仮称)ものづくりナノ医療イノベーションセンター
平成26年 竣工予定

- ・均質・高付加価値医療を実現するナノ医療技術の開発
- ・ナノ医療技術を広く普及・浸透させる社会実装研究
- ・多様化する社会ニーズに応えるためのソリューション実証研究

ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
川崎サイエンスセンター
平成26年 竣工予定

- ・高度医療機器の安全使用のために、外科手術シミュレーション装置や最新設備を使った医師向けの研修
- ・開発中の医療機器の評価試験
- ・医師が海外からも含め年間1万人利用予定

＜第3段階整備＞・・・③

平成24(2012)年2月
国立医薬品食品衛生研究所
(世田谷区用賀)の移転を発表



- ・医薬品、食品等の品質、安全性並びに有効性の評価に関する試験・研究を実施
- ・地方衛生研究所や検疫所に技術指導を行うほか、世界各地からの研究者の受入、研修等を実施

○健康安全研究所との連携による市民生活に密接に関連する食品などの安全確保や市民の生活環境の維持・向上への貢献に期待

平成23(2011)年12月
京浜臨海部ライフイノベーション
国際戦略総合特区に指定
(川崎市、神奈川県、横浜市の共同申請)

◆3つの政策課題

- ①個別化・予防医療を実現するための健康情報等のデータベース構築
- ②国際共同治験の推進によるドラッグラグ・デバイスラグの解消と国内製品のアジア市場への展開
- ③大学等の優れた要素技術の産業化と既存産業の医療・健康分野への展開



新川崎・創造のもりにおける先端研究開発拠点の形成

第1期事業 (約1.6ha)
「K²タウンキャンパス」
平成12年7月開設

慶應義塾大学の先導的研究施設



【代表例】

小池康博教授の「世界最速プラスチック光ファイバーと高精細・大画面ディスプレイを用いたFace-to-Faceコミュニケーションプロジェクト」が内閣府の「世界のトップを目指す30の最先端研究課題及びそれを実施する中心研究者」に採択



第1期事業
K² (ケイスクエア)
タウンキャンパス

第2期事業
KBIC

第3期事業



NANOBIIC クリーンルーム棟
NANOBIIC 研究棟
KBIC 本館

第3期事業第1段階(約0.88ha)
ナノ・マイクロ産学官共同研究施設
「NANOBIIC」

(Global Nano Micro Technology Business Incubation Center)
平成24年4月開設 (一部は同年9月)

■ナノ・マイクロ領域の「加工～試作～計測～評価」の一連の作業が可能な大型クリーンルームを完備



NANOBIIC 研究棟



NANOBIIC 大型クリーンルーム(約750m²)

(クリーンルーム:ナノレベルの精密な加工が必要不可欠な、ホコリやゴミなどの浮遊物質がないクリーンな状態を保った空間)



■新施設には、4大学(慶大・早大・東工大・東大)ナノ・マイクロファブリケーションコンソーシアムや、東京大学、日本アイ・ビー・エムの共同研究プロジェクト「東京大学社会連携講座」等が入居

■クリーンルーム内に4大学コンソーシアムが有する最先端の研究機器を導入し、企業等に開放予定。研修講座も実施



左から 北森 東京大学工学系研究科長、阿部市長、森本 日本アイ・ビー・エム 理事

第2期事業(約0.7ha)
「かわさき新産業創造センター (KBIC)」
平成15年1月開設

起業家精神を持った個人や新事業開発を目指す中小・中堅企業等に対し、創業支援や成長支援などを通じて地域経済の活性化を図るベンチャービジネス創出拠点



【代表例】

隣接するK²タウンキャンパスの電気自動車研究室(清水浩教授)の世界最速級の電気自動車「エリーカ」の技術をベースとした慶應義塾大学発ベンチャー企業、(株)SIM-Driveは、KBICを拠点とし、国内大手企業等と電気自動車の開発に取り組む先行開発車事業に取り組んでおり、現在、第3号事業を展開中

ナノ・マイクロ技術を核とした
ライフサイエンス・環境分野の研究開発、産業化

<ライフサイエンス分野>

がん細胞を狙って投薬



<環境・エネルギー分野>

太陽電池のエネルギー効率を2倍に





高い利便性と魅力と活気にあふれるまち

川崎市は、首都圏の中心、羽田空港の対岸に位置し、交通アクセスに至便で活力のあるまち
少子高齢化・人口減少社会を見据え、都市拠点を中心としたコンパクトで利便性の高い都市基盤整備を推進

登戸・向ヶ丘遊園駅 周辺地区整備

- 登戸土地区画整理事業
- 向ヶ丘遊園駅連絡通路の整備



新百合ヶ丘駅周辺

武蔵小杉駅周辺地区整備

- コンベンション施設の整備に向けた取組
- 都市機能の集積を図り、利便性の高いコンパクトなまちづくりを進める



JR横須賀線武蔵小杉駅
(H22.3.13開業)



新川崎・鹿島田駅周辺地区整備

- 鹿島田駅西地区再開発事業
- 鹿島田跨線歩道橋・交通広場等整備事業



溝口駅周辺地区整備

- 溝口駅南口広場の整備

羽田空港

- 平成22年10月に新設滑走路、新国際線旅客ターミナルが供用開始
国際定期便が就航
- 京急川崎駅から乗り換えなしで約15分と至近

川崎駅周辺地区整備

- 回遊性・利便性の高い魅力ある都市空間形成へ
- 北口自由通路と新たな改札口の整備に着手
 - 西口ベデストリアンデッキの整備に向けた取組



川崎駅東口駅前広場再編整備
H23.3.26完成

太陽光発電や照明LED化等を導入
エコ化を市内外へ積極的に情報発信

川崎縦貫鉄道

<新技術による川崎縦貫鉄道整備推進検討委員会の提言>
 「新技術を活用した地下鉄の実用化には一定の時間(10~20年)を要する」

提言を受けて

「川崎市総合都市交通計画(案)」において、20年以内に事業着手を目指すべき事業と位置付け、今後も事業推進に向け取り組んでいく



川崎市の中長期的なまちづくりの方向性

高齢化、人口減少が進展する中でも誰もが暮らしやすい生活環境を確保するため、中長期的なまちづくりの方向性を示す4つの「～化」(バケ)を踏まえた取組を推進

コンパクト化



主要駅を中心に効率的に施設を集約するコンパクトなまちづくり

- 平成25年度の取組 4,594百万円
- ・武蔵小杉駅周辺の市街地再開発
 - ・新川崎駅周辺の都市基盤施設整備 など



長寿命化

公共施設の定期的・計画的な予防保全型の維持補修を行い長寿命化を推進

- 平成25年度の取組 9,062百万円
- ・学校施設の効率的マネジメントの推進
 - ・大規模施設の予防的維持補修の実施 など

4つの「～化」

エコ化

まち全体を環境技術にあふれたショーケースとする取組を推進



- 平成25年度の取組 4,338百万円
- ・川崎メカニズム認証制度による温室効果ガス削減量の評価・認証
 - ・スマートシティ戦略の推進 など



ユニバーサル化

高齢者や障害者をはじめ、「誰もが使いやすい」という視点でまちづくりを推進

- 平成25年度の取組 6,269百万円
- ・福祉製品におけるかわさき基準(KIS)の推進
 - ・ユニバーサルデザインタクシーの導入促進 など

2

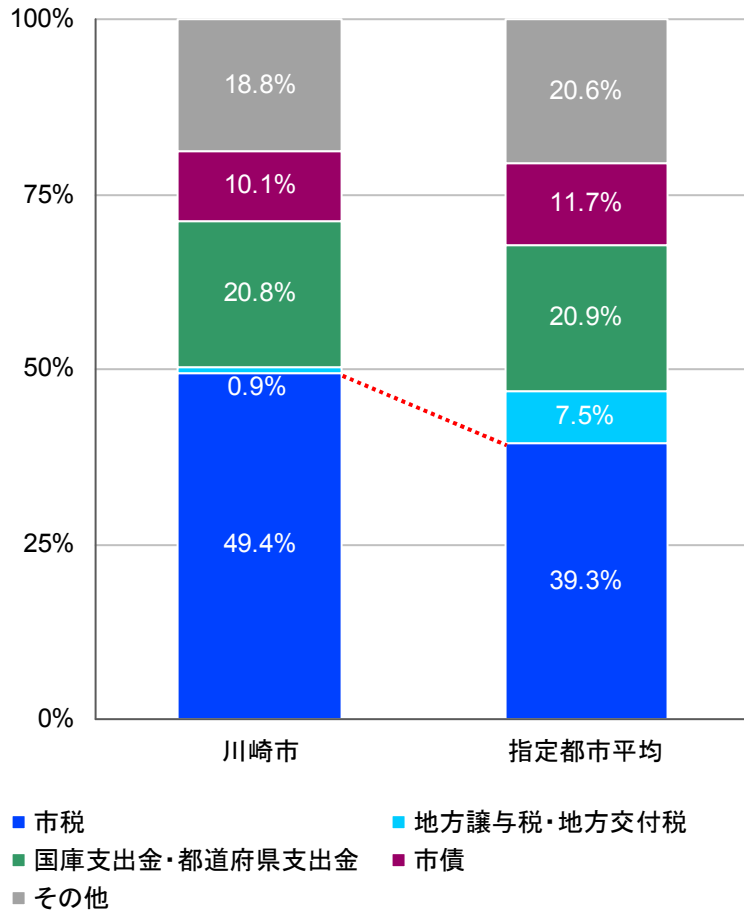
財政の現状分析

- (1) 指定都市との財政状況比較
- (2) 税収構造の分析
- (3) 歳出構造の分析(普通会計)
- (4) 地方財政健全化指標、プライマリーバランス
- (5) 市債残高の推移
- (6) 公営企業会計の状況
- (7) 川崎市の連結バランスシート(平成23年度末時点)
- (8) 平成25年度予算
- (9) 税収、市債残高、歳出(性質別)の推移



指定都市との財政状況比較

歳入構造 (平成23年度普通会計決算)

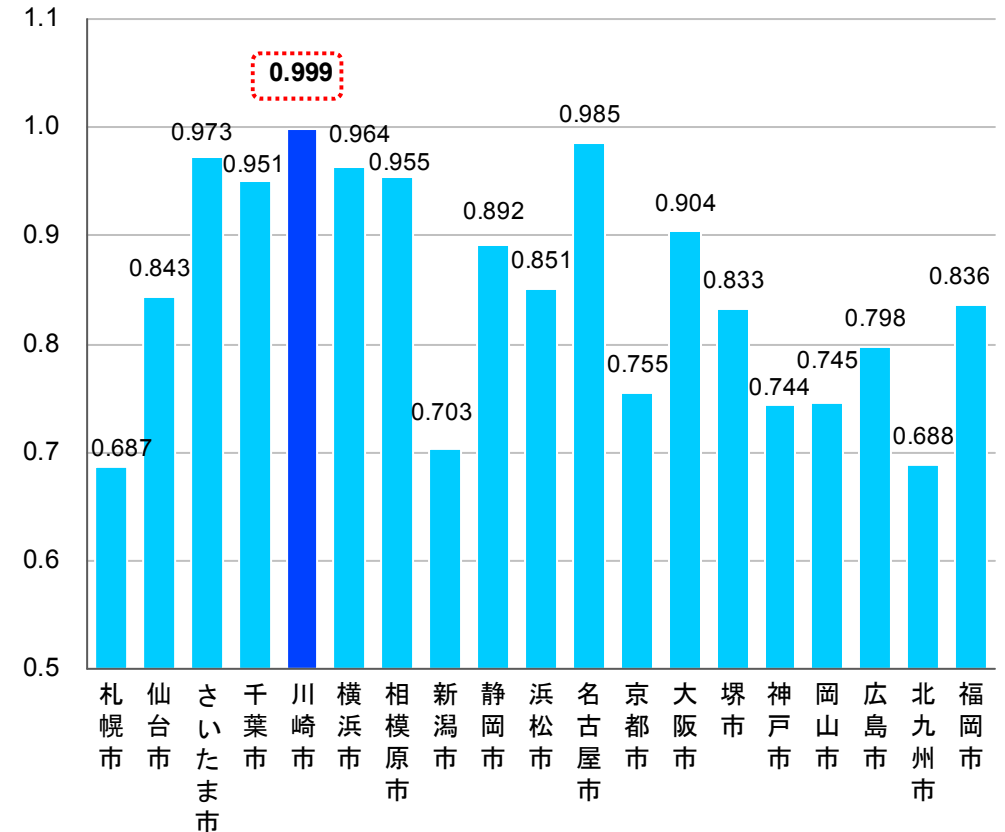


歳入に占める税収の割合が高い

財政力指数の状況

(川崎市は、平成23年度から普通交付税交付団体)

(前年比%)



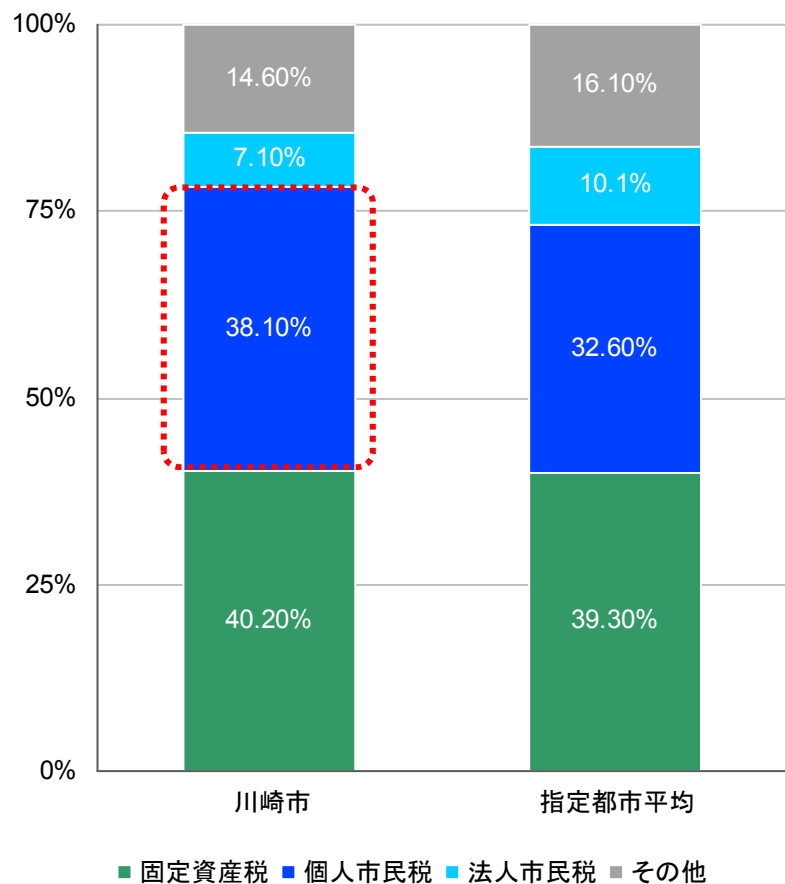
※ 各都市への照会に基づき川崎市が算定 ※ H22~24年度の平均値

H24年度財政力指数 0.999



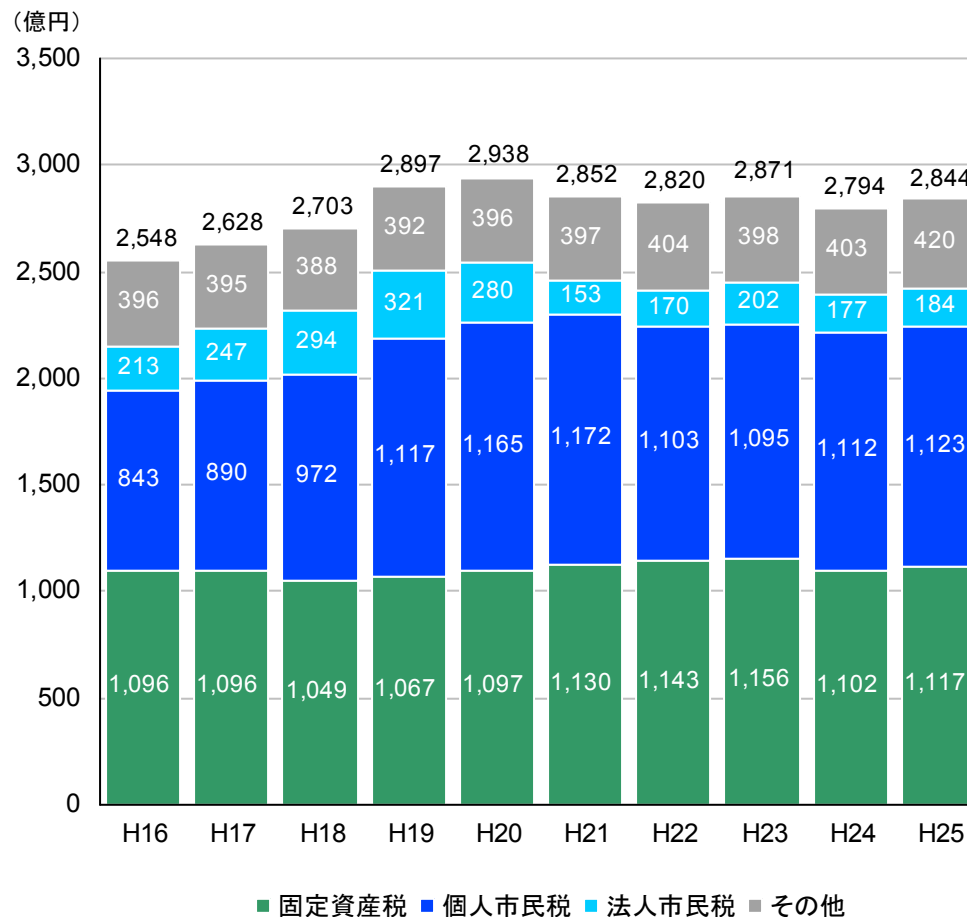
税収構造の分析

平成23年度決算に基づく指定都市比較



個人市民税の構成比が高い

税収構造の推移

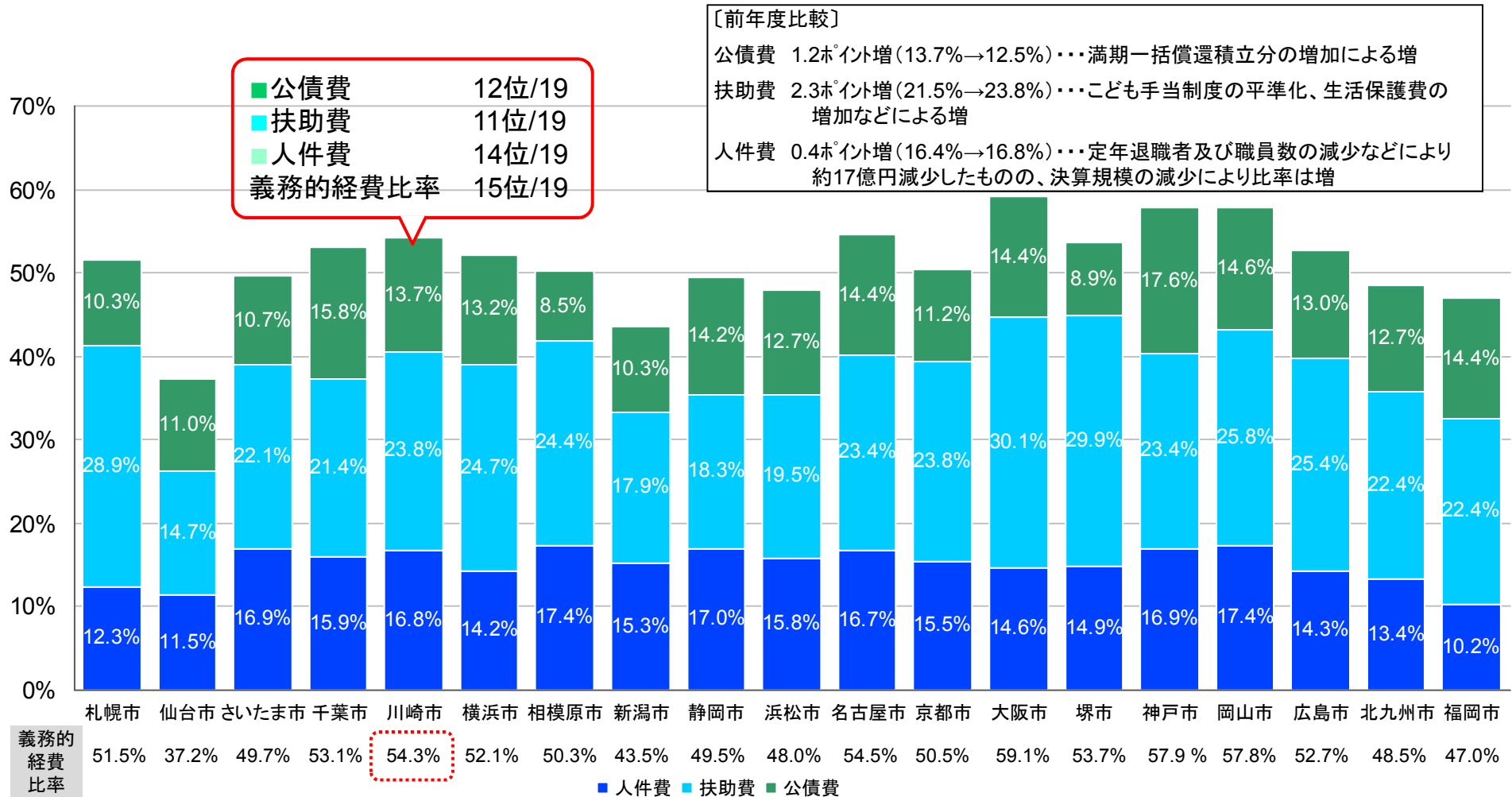


※ H23までは決算、H24、H25は当初予算



歳出構造の分析（普通会計）

歳出に占める義務的経費比率の指定都市比較（H23年度決算）



義務的経費比率は対前年度比約4ポイント増加（ 50.4% ⇒ 54.3% ）



地方財政健全化指標、プライマリーバランス

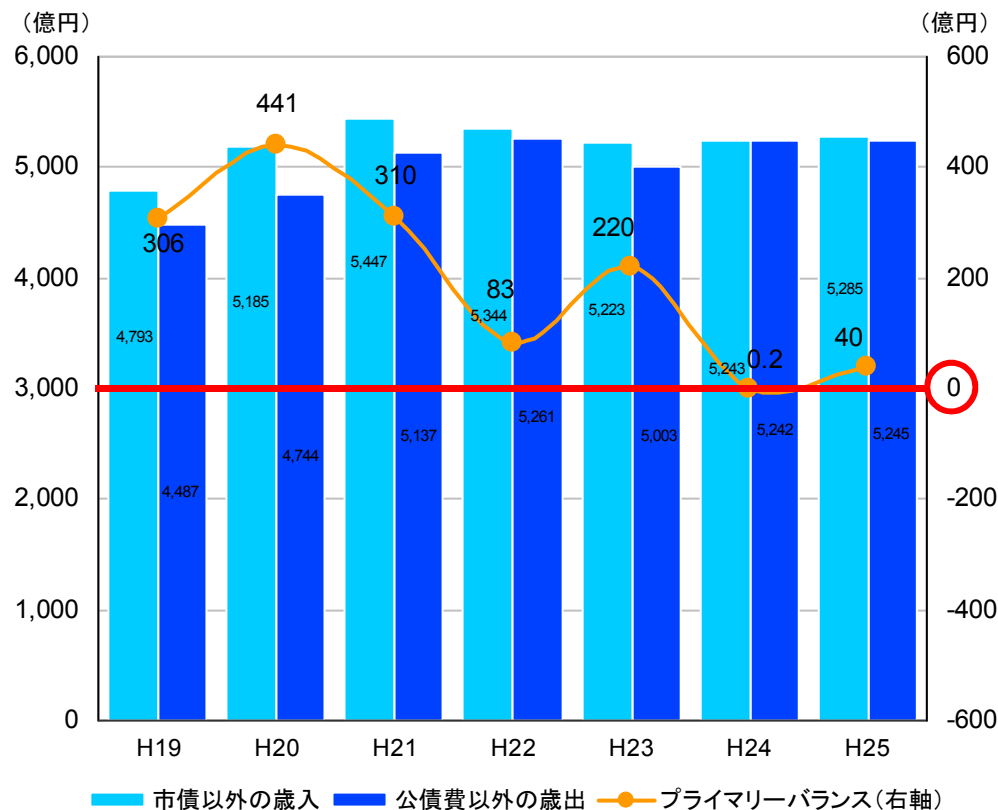
地方財政健全化指標

地方財政健全化指標	川崎市 H23年度決算	【参考】 早期健全化基準
実質赤字比率	— 【赤字となっていない】	11.25%
連結実質赤字比率	— 【赤字となっていない】	16.25%
実質公債費比率	10.9% (11.9%)	25.0%
将来負担比率	111.2% (120.0%)	400.0%
資金不足比率 (企業会計)	— 【資金不足となっていない】	20.0%

※()内の数字は、H22年度決算

健全化指標については、
いずれも早期健全化団体となる基準をクリア

一般会計基礎的財政収支



※H23までは決算、H24、H25年度は当初予算

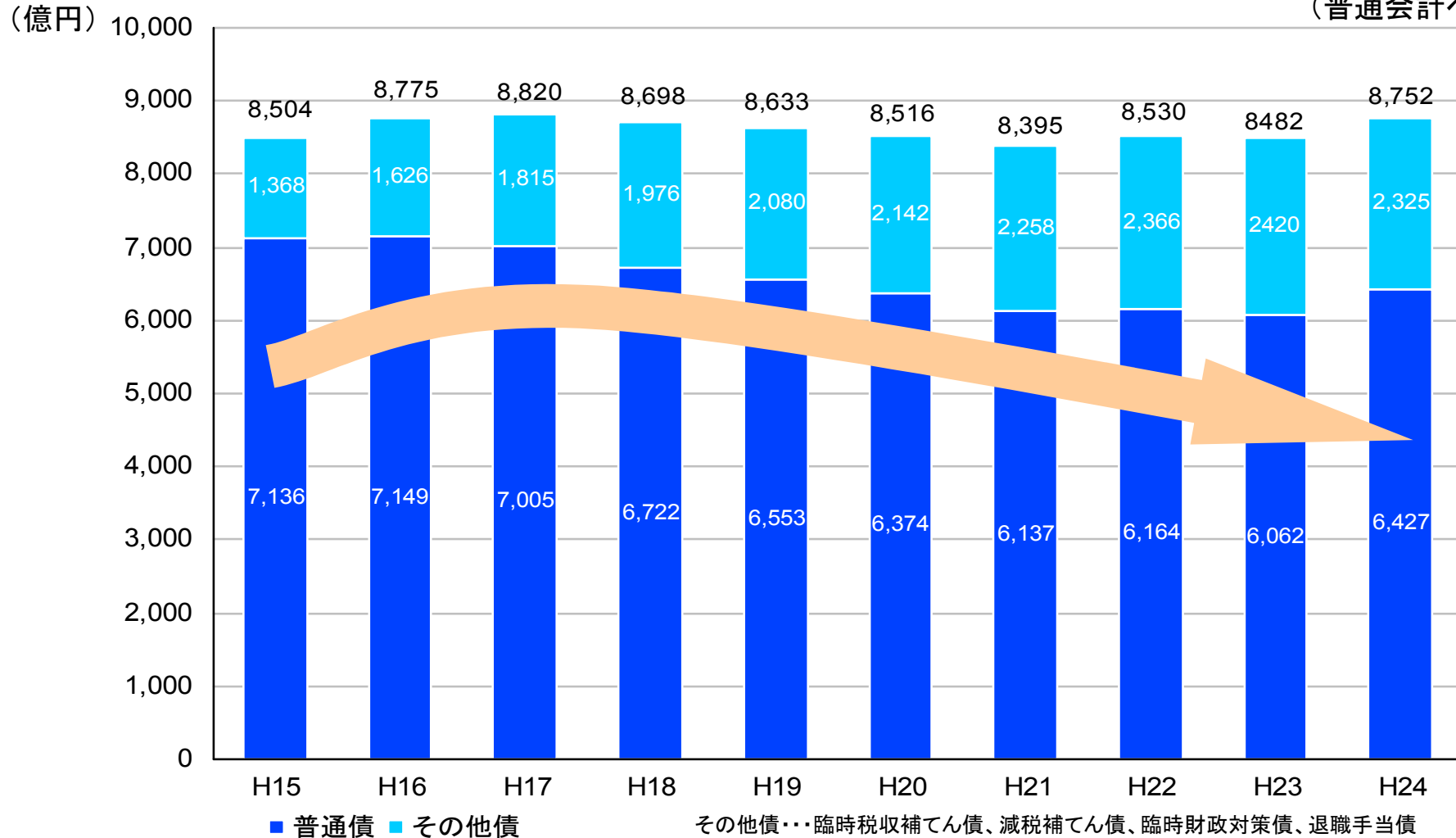
平成17年度以降
プライマリーバランスは黒字



市債残高の推移

○ 普通債残高は平成16年度をピークに減少傾向

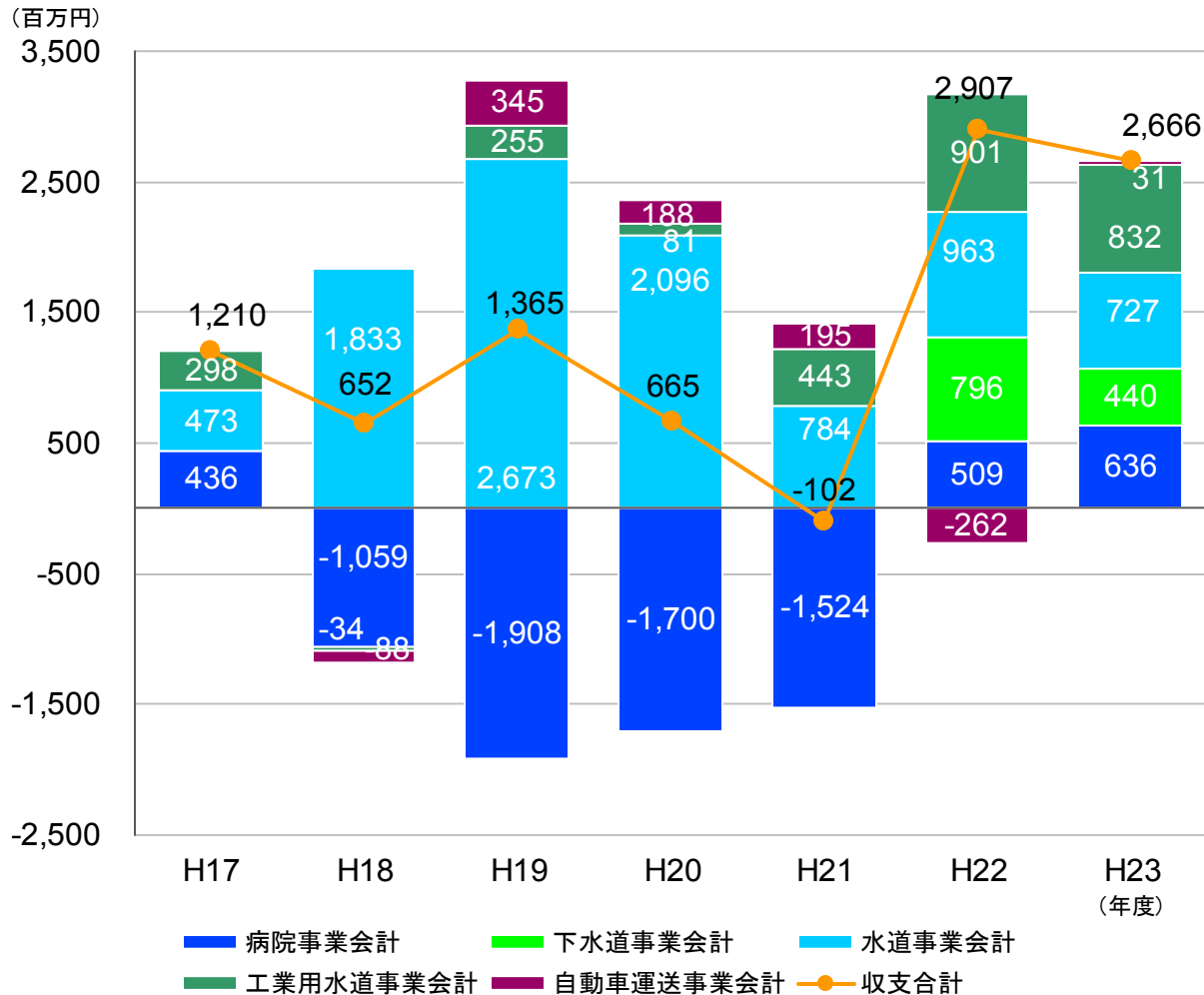
(普通会計ベース)





公営企業会計の状況

各公営企業会計別当年度純利益(損失)の推移



各会計の経営健全化計画

- 病院事業経営健全化計画
 - 23年度に第3次経営健全化計画を策定し、さらなる経営健全化を推進
- 水道・工業用水道事業の再構築計画
- 下水道事業中期経営計画
 - 22年度に上下水道局を設置。引き続き、管理部門・窓口部門等の執行体制の見直しを行い、経営を効率化
- 川崎市バス事業ステージアップ・プラン
 - 計画期間最終年度の単年度収支均衡及び持続可能な経営基盤の確立

各計画に基づきサービスの向上と経営健全化に取り組んでいる。

- 病院事業会計については、多摩病院が建物や医療機器の減価償却費により赤字となったものの、川崎病院及び井田病院は黒字となり、会計全体でも2年連続の黒字を確保
- 下水道事業会計は、平成22年度から2年連続の黒字を確保



川崎市の連結バランスシート（平成23年度末時点）

連携協力団体との連結貸借対照表

基準モデル(平成23年度決算から導入)

項目	平成23年度 A
資産合計	5兆 5,016 億円
金融資産	3,559 億円
非金融資産	5兆 1,457 億円
負債合計	1兆 7,205 億円 (資産合計に占める割合 31.3%)
流動負債	1,772 億円
非流動負債	1兆 5,433 億円
純資産合計	3兆 7,811 億円 (資産合計に占める割合 68.7%)

総務省方式改訂モデル

項目	平成23年度 A	平成22年度 A	A - B
資産合計	6兆785 億円	6兆485 億円	300 億円
公共資産	5兆7,045 億円	5兆 6,727 億円	318 億円
投資等	1,734 億円	1,758 億円	△ 24 億円
流動資産	2,005 億円	2,000 億円	5 億円
負債合計	1兆 7,349 億円 (資産合計に占める割合 28.5%)	1兆 7,433 億円 (資産合計に占める割合 28.8%)	△ 84 億円
固定負債	1兆 5,559 億円	1兆 5,368 億円	191 億円
流動負債	1,790 億円	2,065 億円	△ 275 億円
純資産合計	4兆 3,436 億円 (資産合計に占める割合 71.5%)	4兆 3,052 億円 (資産合計に占める割合 71.2%)	384 億円

※ 全会計に加え、一部事務組合、地方公社及び第3セクター等の貸借対照表を連結
 ※ 各項目を四捨五入しているため、内訳と合計が一致しないことがあります。



平成25年度予算

1 平成25年度予算 ～「新たな飛躍」予算～

予算編成のポイント 一般会計の予算規模は5,984億円(前年度比0.5%増)

- ①「川崎の新たな飛躍」に向けた取組を全力で推進
- ②自治基本条例に基づく市民本位のまちづくりに向けた取組を一層推進
- ③行財政改革の取組を確実に反映

一般会計歳入

(百万円・%)

区分	平成25年度		平成24年度		比較	
	予算額	構成比	予算額	構成比	増減額	増減率
市税	284,398	47.5	279,443	46.9	4,955	1.8
譲与税・交付金	23,535	3.9	24,005	4.0	△470	△2.0
地方交付税	1,461	0.2	1,537	0.3	△76	△5.0
国・県支出金	117,478	19.7	121,133	20.3	△3,655	△3.0
市債	69,904	11.7	71,380	12.0	△1,476	△2.1
その他	101,633	17.0	98,134	16.5	3,499	3.6
合計	598,409	100.0	595,632	100.0	2,777	0.5

- 市 税 : 家屋の新增築等による固定資産税の増、納税者数の増加による個人市民税の増により、市税全体では50億円の増
- 市 債 : 臨時財政対策債の減などにより、15億円の減
- 人 件 費 : 職員数の削減や、共済費の減などにより、11億円の減
- 扶 助 費 : 制度改正により児童手当費が減となるものの、保育所受入枠の拡大による民間保育所運営費の増などにより、35億円の減

一般会計歳出(性質別)

(百万円・%)

区分	平成25年度		平成24年度		比較	
	予算額	構成比	予算額	構成比	増減額	増減率
義務的経費	314,230	52.5	309,245	51.9	4,985	1.6
人件費	95,954	16.0	97,027	16.3	△1,073	△1.1
扶助費	144,332	24.1	140,821	23.6	3,511	2.5
公債費	73,944	12.4	71,397	12.0	2,547	3.6
投資的経費	89,538	15.0	90,709	15.2	△1,171	△1.3
その他経費	194,641	32.5	195,678	32.9	△1,037	△0.5
合計	598,409	100.0	595,632	100.0	2,777	0.5

2 「川崎の新たな飛躍」に向けた取組

- 災害に強いまちづくりに向けた取組
…総予算額15,768百万円
- 京浜臨海部における国際戦略拠点の形成
…総予算額 2,137百万円
- カーボン・チャレンジ川崎エコ戦略2013
…総予算額 4,338百万円
- 子育て環境の充実
…総予算額53,470百万円
- 高齢者施策の充実
…総予算額77,593百万円
- 経済・雇用対策の充実
…総予算額89,073百万円

など

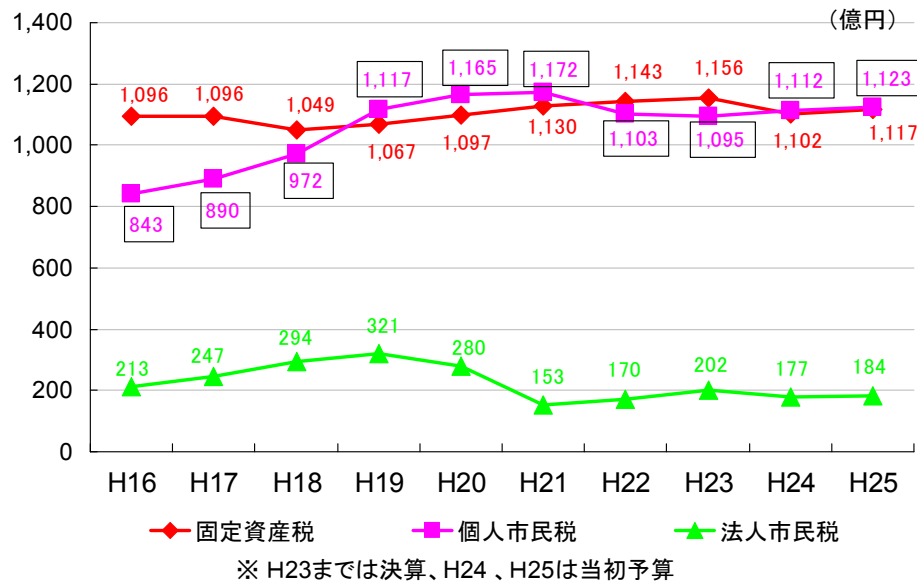
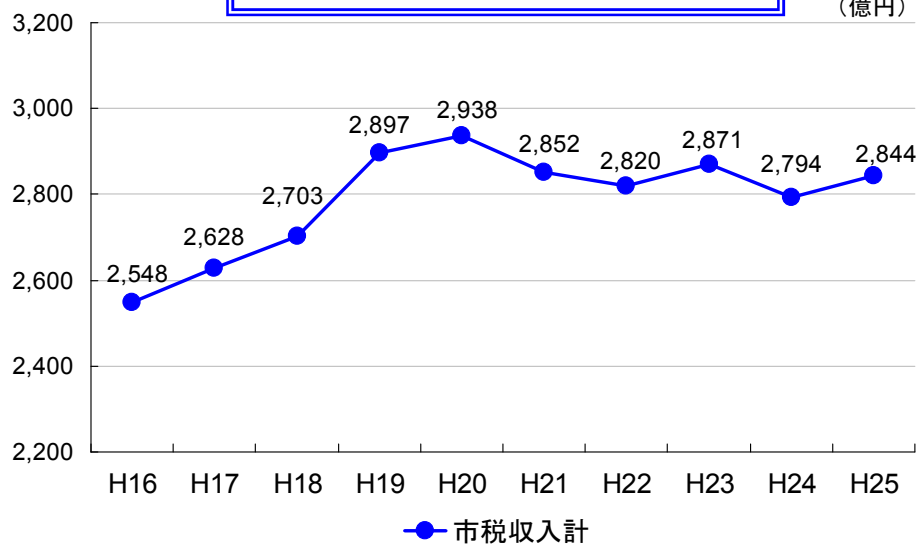
3 国の補正予算への対応

- 国の動き…「日本経済再生に向けた緊急経済対策」
(補正規模 約10兆円)
- 本市の対応
平成25年度当初予算5,984億円に加えて
平成24年度、25年度補正予算などにより130億円の対応
⇒15か月予算としては6,024億円の規模

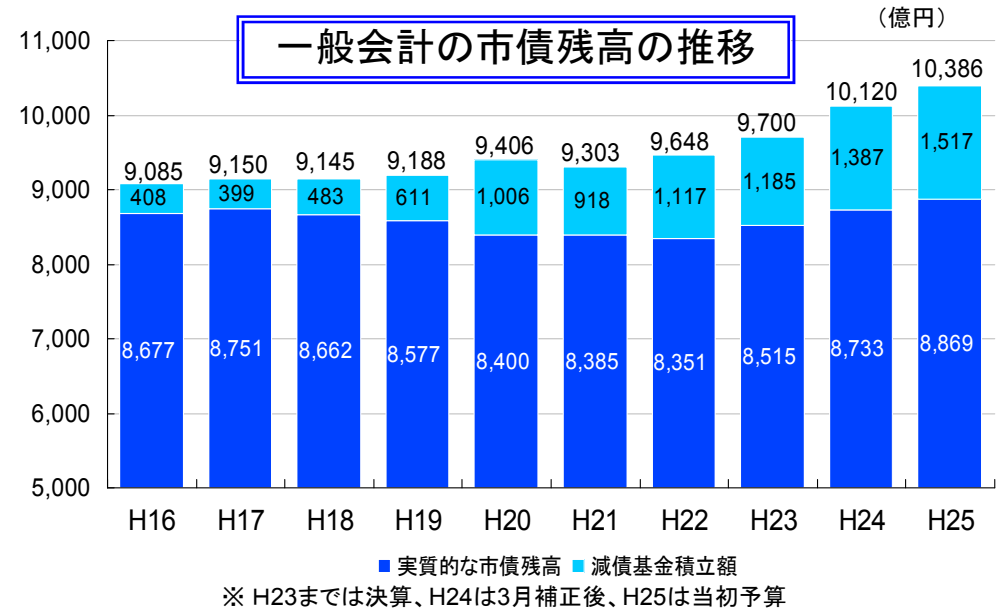


税収、市債残高、歳出(性質別)の推移

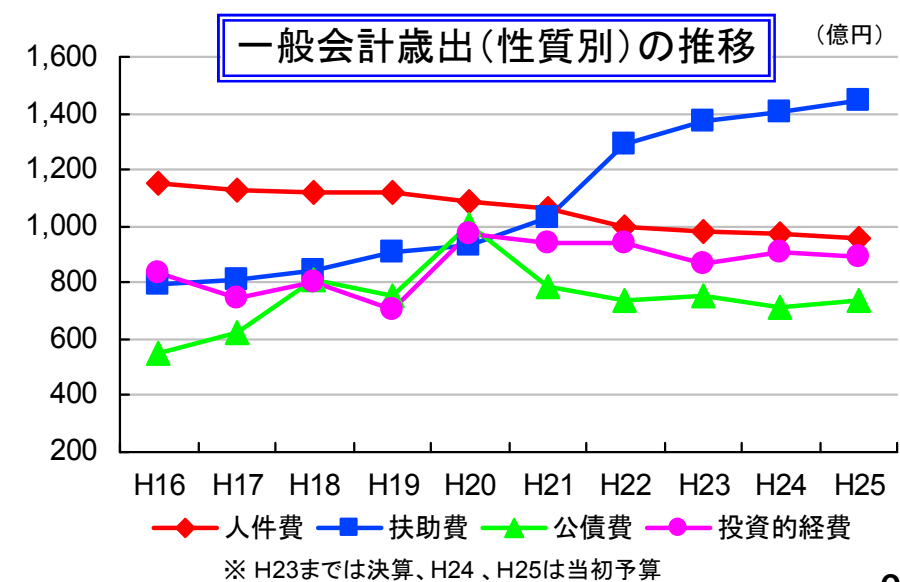
税収の推移



一般会計の市債残高の推移



一般会計歳出(性質別)の推移



3

行財政改革の取組

- (1) 行財政改革の取組
- (2) 今後の主な改革と市民ニーズへの対応
- (3) 財政フレーム
- (4) 出資法人の状況
- (5) 土地開発公社の状況



行財政改革の取組

「川崎市新たな行財政改革プラン ～第4次改革プラン～」(平成23～25年度)を策定

これまでの取組(平成14～23年度)
2,733人の職員削減、752億円の改革効果

新たな行財政改革プラン ～第4次改革プラン～
(平成23～25年度)
3年間で約600人の職員削減(減員1,000人、増員400人)

将来を見据えた都市基盤
施設の整備と活用

効率的・効果的な
行政体制の整備

組織力の強化に
向けた取組

6つの取組

地方分権改革等に
向けた取組

市民サービスの
再構築

市民や事業者等の
力が発揮できる
活力ある地域社会づくり

市民サービスの再構築

■ 多様化する市民
ニーズへの対応



救急医療体制の強化

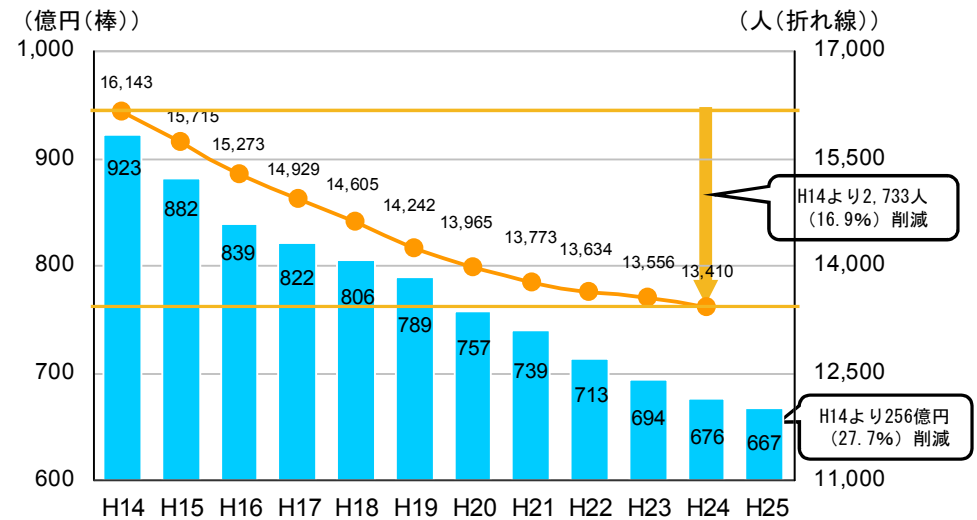


待機児童対策として
保育所91園を新たに開設



太陽光発電設備・太陽熱利用設備
設置費補助を実施

職員数と職員給の推移



H14より2,733人
(16.9%)削減

H14より256億円
(27.7%)削減



今後の主な改革と市民ニーズへの対応

上下水道事業のさらなる経営健全化の推進

- ・水道事業のダウンサイジング
100万 m^3 ⇒ 75万 m^3
- ・施設の再構築、組織再編
などに取り組み、さらなる
経営の健全化を推進

今後の主な取組

平成25年1月：上下水道お客さまセンターの開設
3月：水道サービス公社の解散
4月：水道工事の請負化等の拡充
平成26年度以降：下水道施設の運転管理業務
の委託化拡充
平成28年4月：生田浄水場の水道事業の機能廃止、
執行体制の見直し

- ・施設、管路・管きよの耐震化
- ・東日本大震災を踏まえた危機管理対策
の推進
- ・効率的・効果的な組織体制の整備を推進
- ・水道料金の負担軽減を継続

ごみ収集体制の見直し

分別収集の拡大などにより普
通ごみを減量化し、収集処理
体制の見直しを推進
⇒これにより、4処理から3処
理センター化を実現
(約18億円の年間経費縮減)

今後の取組：平成25年9月

- ・プラスチック製容器包装の分別収集
を全市に拡大(年間約5.9億円増)
- ・減量化が進む普通ごみの収集体制
を週3回から2回に変更
(約5.1億円の年間経費縮減)

- ・集積所周辺の環境美化対策
- ・集積所まで距離がある狭あい地域への対策
- ・家庭での生ごみ対応支援や必要な啓発
など

保育所の民営化

民間部門による運営を基本に、
保育所の民営化を推進

今後、民営化を予定する保育園 (毎年3～5園程度を目標)

平成25年4月：出来野、古市場、千年、西宿河原、中野島
平成26年4月：観音町、上小田中、子母口、西有馬、三田

- ・平成23年度からの3年間で4,000人を
超える認可保育所の定員増
- ・認可外保育事業の充実
- ・保育人材の確保・育成を推進



財政フレーム

健全な財政構造の構築に向けた取組目標

- ① 平成26年度には減債基金からの新規借入を行うことなく収支均衡を図る
- ② 継続的な収支均衡と安定的なプライマリーバランスの黒字の確保を図る
- ③ 資産マネジメント(資産保有量の最適化・施設の長寿命化等)の推進や市債の適正な活用により将来負担の適切な管理を行う

一般財源ベース

(億円)

項目/年度	H23予算	H24見込	H25見込	H26見込	H27見込
歳入合計 A	3,494	3,580	3,712	3,803	3,796
市税	2,796	2,809	2,832	2,857	2,868
地方譲与税	31	30	30	29	29
利子割交付金～ ※1	171	170	165	172	179
地方交付税	5	5	5	5	5
市債	185	185	185	185	185
減債基金借入金(過年度分)	150	258	353	413	413
その他	156	123	142	142	117
歳出合計 B	3,602	3,710	3,831	3,860	3,853
人件費	895	872	857	835	828
扶助費	443	484	511	520	530
公債費	722	684	716	714	728
投資的経費	175	175	166	175	175
減債基金借入金返還金	150	258	353	413	413
その他経費	1,217	1,237	1,228	1,203	1,179
減債基金からの新規借入れ	108	95	60	0	0
施策調整・事業見直し C ※2	0	- 35	- 59	- 57	- 57

※1 県税の一部が交付されるもので、利子割、配当割、株式等譲渡所得割、地方消費税、ゴルフ場利用税、自動車取得税、軽油引取税の7種類の交付金の総額

※2 A-Bの収支不足はCで対応。



出資法人の状況

役割や事業について検証しながら、法人の統廃合、市の財政的・人的関与の見直しを実施
(平成22年度末(財)川崎市リサイクル環境公社解散、平成23年度末(財)川崎市指定都市記念事業公社解散)

【見直しの基本的な視点】

- 出資法人が実施している事業の必要性(市民ニーズ)はあるのか
- 事業の必要性はあっても行政の関与の必要性はあるのか
- 行政関与の必要性が認められても誰が行うことが最も効率的で、効果的=最適な実施主体=なのか

土地開発公社・ 住宅供給公社

- 平成23年度の収支は、土地開発公社は赤字(準備金で補てん)、住宅供給公社は黒字
- 平成22年4月に2公社の事務部門の統合を行うなど簡素で効率的な執行体制の構築に向けた取組を推進

財団法人 (市出資比率50%以上15法人)

- 平成23年度の収支は8法人が黒字、3法人が均衡、4法人が赤字
(平成22年度末に解散した(財)川崎市リサイクル環境公社を除く。)
- 公益法人制度改革への対応を進めるとともに、公共サービスの担い手としての必要性等を検討のうえ、各法人の今後の方向性に向けた取組を推進

株式会社 (市出資比率50%以上3法人)

- 平成23年度の収支は3法人すべて黒字
- 新たな行財政改革プランでは、市場原理・競争原理に基づき法人が主体的に見直しを行うべきであるという基本的な考え方に立ち、引き続き経営改善・自立化に向けた取組を推進

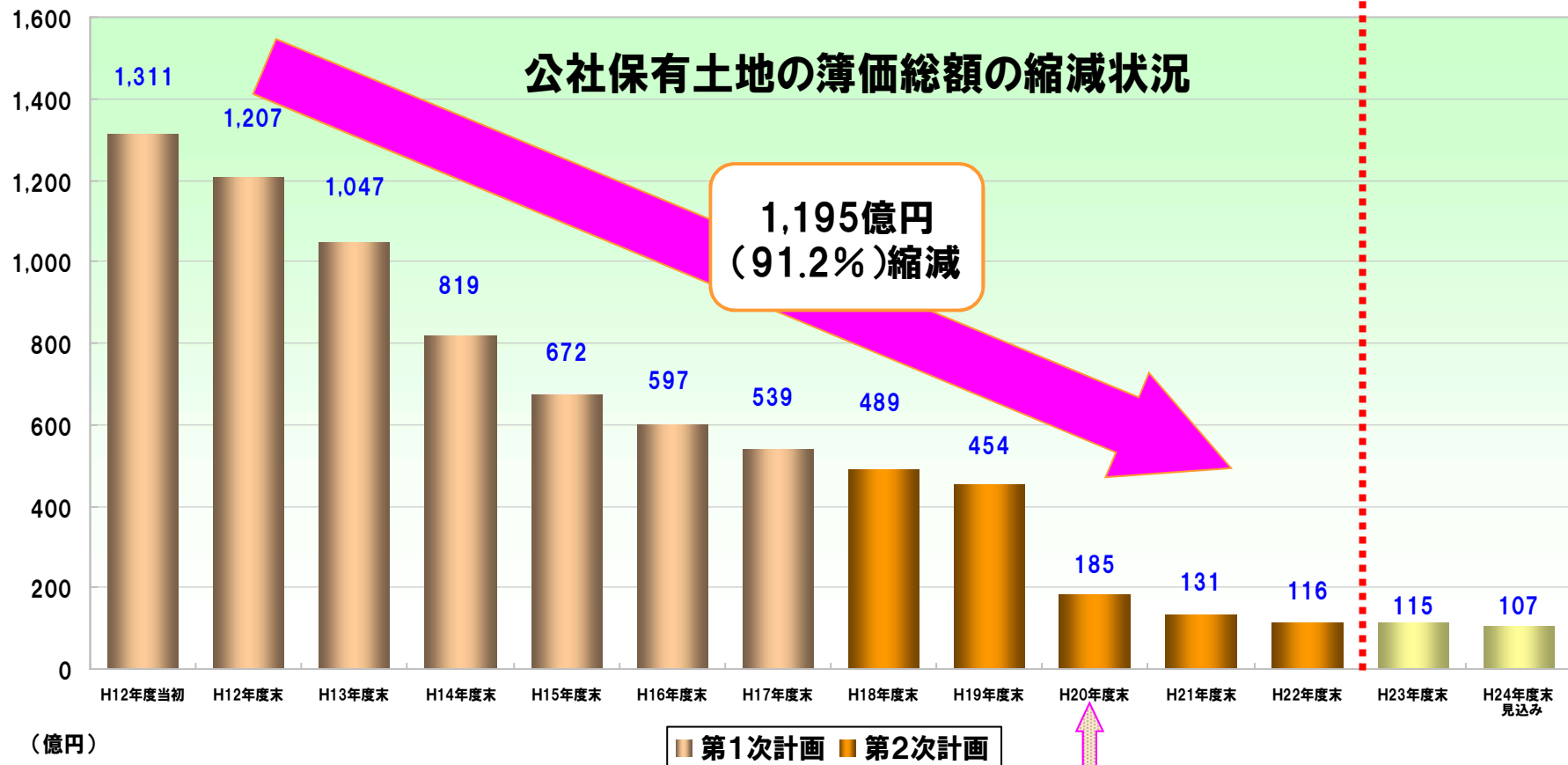


土地開発公社の状況

土地開発公社経営健全化計画による取組結果

第1次計画(平成12年度～17年度)

第2次計画(平成18年度～22年度)



4

川崎市債の管理

- (1) 平成25年度川崎市債発行計画
- (2) 川崎市債発行実績
- (3) 市債発行額・残高に関する将来推計
- (4) 公債費等に関する将来推計
- (5) 市債に関する取組
- (6) 川崎市ホームページ



平成25年度川崎市債発行計画

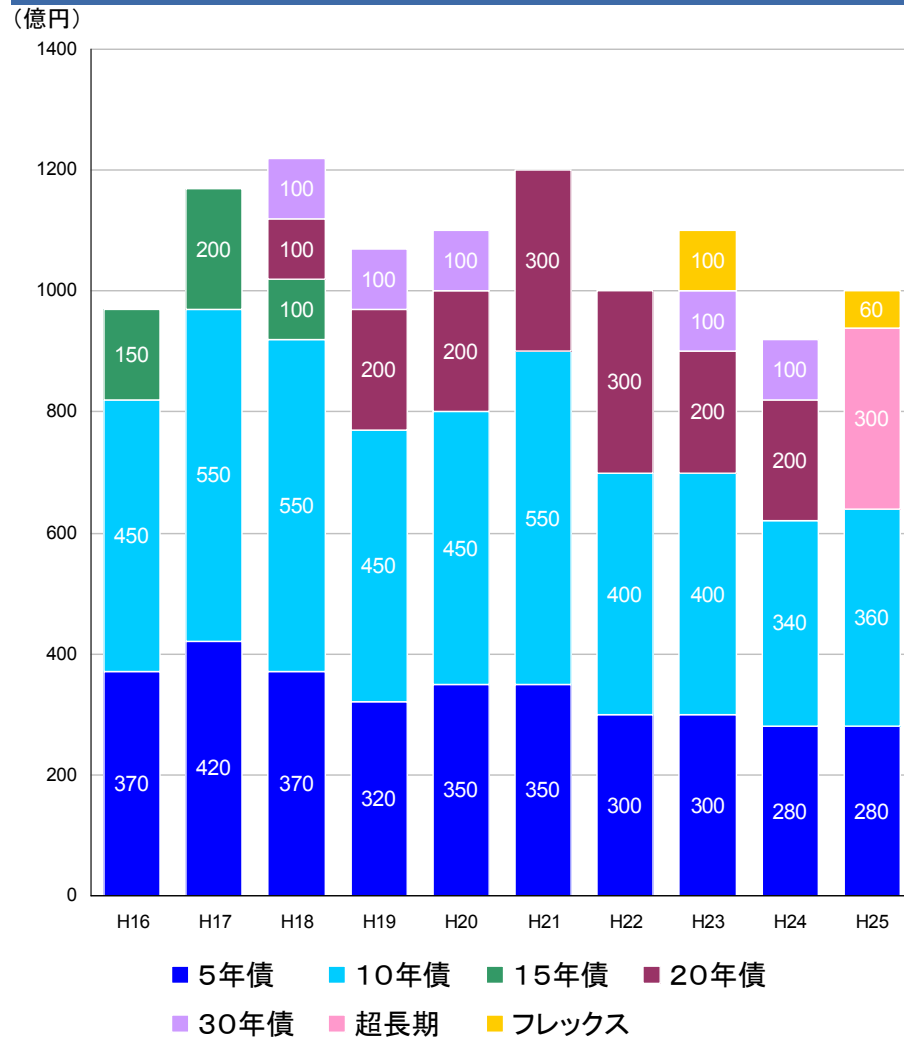
- 全会計合計借入予定額は1,672億円:うち民間資金合計額は1,407億円(全体の84.1%)
- 市場公募債の発行予定総額は1,000億円(全体の59.8%):うち川崎市個別発行分は740億円(全体の44.3%)
- 銀行等引受債の発行予定総額は407億円(全体の24.3%)
- 市債償還の平準化や市場のニーズに応える観点などから、フレックス枠(中長期)60億円を設定
- 中期、長期、超長期の構成比は33%:33%:34%

区分	発行年限	発行総額 【億円】	25年										26年			出納 整理 期間 ほか	スポット 発行		
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
市場公募債	川崎市個別発行	全国型市場公募地方債	5年	280	70			70			70			70					
		10年	100									100							
		超長期	300 (100×3)															300	
		フレックス (中長期)	60															60	
	共同発行	10年	240		50	50		50	30		50			30					
銀行等引受債	証券又は証書発行	5年	214												9	205			
		10年	193						50						33	110			
		超長期	0																
民間資金合計			1,407																



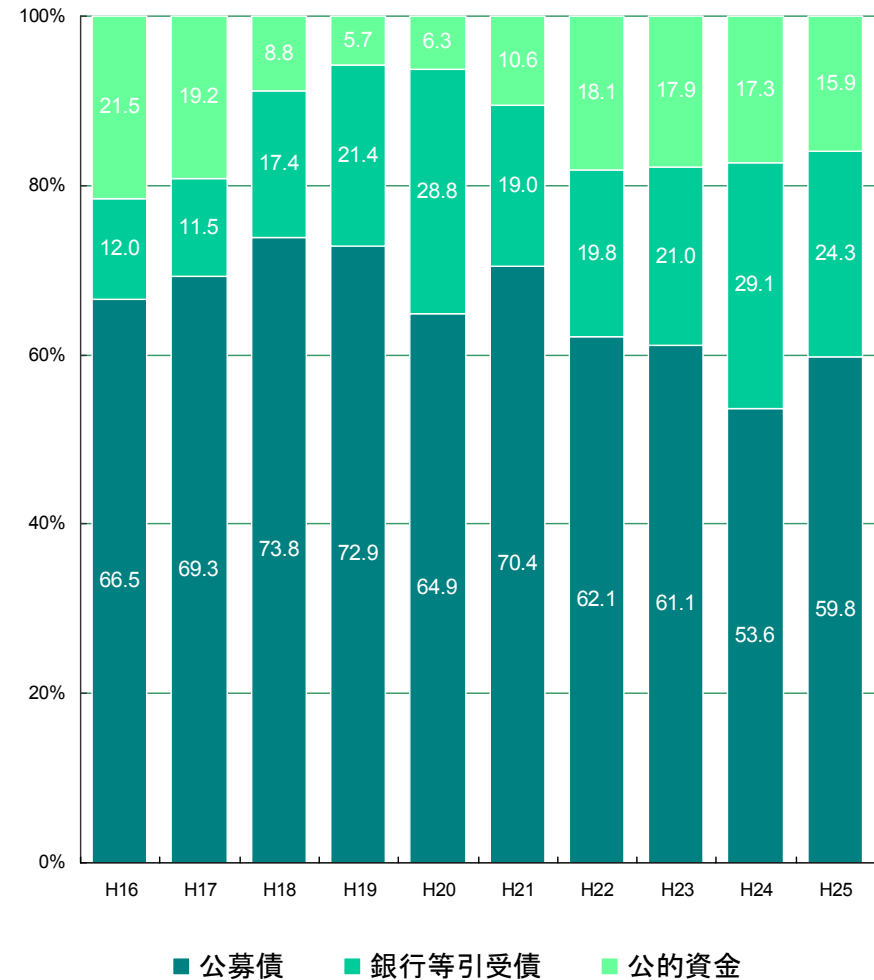
川崎市債発行実績

川崎市公募債発行額の推移



※ H25は計画

資金区分別の発行割合の推移

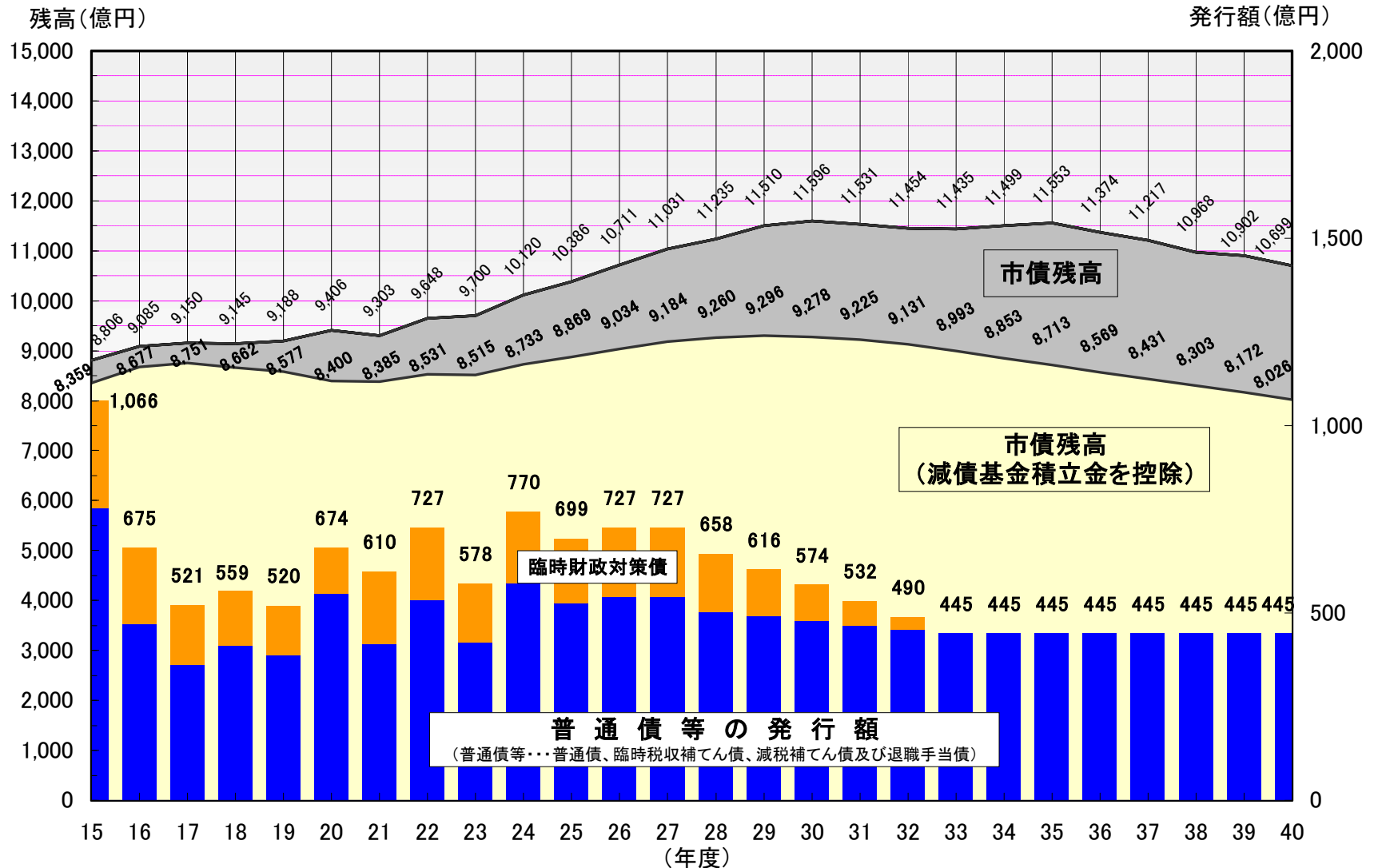


※ H25は計画



市債発行額・残高に関する将来推計

市債発行額及び残高の推移



注 平成15年度の発行額は借換債を除いた金額を計上しています。



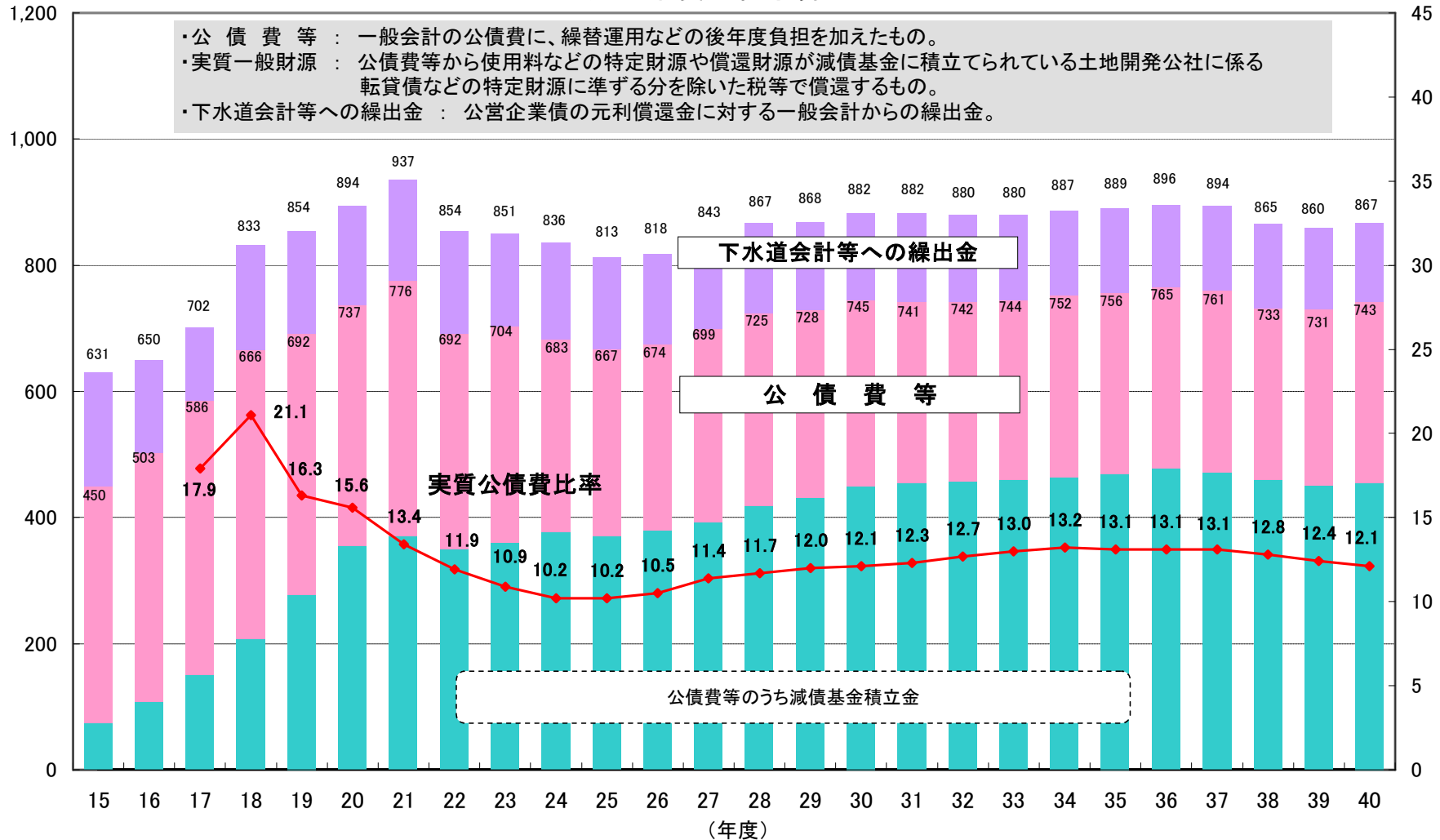
公債費等に関する将来推計

公債費等の推移(実質一般財源ベース)

公債費等(億円)

平成25年度当初予算ベース

実質公債費比率(%)



注 実質公債費比率は平成17年度から算出しています。また、平成19年度に算出方法が変更されています。



市債に関する取組

市場との対話の重視

起債アドバイザー制度 (H18年度創設)

- 目的
 - 市場関係者及び有識者から、川崎市が起債運営の実務面に関し、直接かつ継続的に助言や意見を聞く
- メンバー
 - 川崎市の主要な引受金融機関(地域金融機関・証券会社等)及び有識者を中心に構成
 - 市場関係者の参加メンバーは、市債の引受に関し、特別な責任及び資格を伴い、起債運営に協力する

投資家懇談会 (H18年度創設)

- 目的
 - 市債を保有・運用する機関投資家及び有識者から、川崎市が直接かつ継続的に意見を聞く
- メンバー
 - 国内の主要な投資家(生保、損保、投資顧問、共済組合など)及び有識者を中心に構成

これまでの実績

- 25回開催済み(年2~4回)
- 平成23年度から2つの専門部会を設置
- 起債評価や市場の課題について幅広く意見交換
- 本市の起債戦略に大きく寄与

- 14回開催済み(年2回)
- 本市の起債運営について投資家との率直な意見交換を実施
- 本市の円滑な起債運営に大きく寄与



川崎市ホームページ

川崎市では、IRに関するイベント情報や市債発行、財政関連情報などをIRニュースにより年12回、個人・機関投資家の皆様に配信しています。川崎市IRサイトから配信登録できますので、是非御活用ください。

川崎市 IR ニュース 第82号
発行：川崎市財政局資金課
平成25年2月21日

川崎市では、市民や投資家、アナリスト、市場関係者の皆様への情報提供活動の一環として、市債発行計画などの市債情報や、予算・決算などの財政関連情報、IR説明会開催などのIR情報を「IRニュース」として発信しております。

機関投資家向け川崎市IR説明会のご案内

川崎市では、市場関係者の皆様に向けて、市長自らが本市の経営ビジョンを御説明するとともに、投資家の代表と市長とで「川崎の新たな飛躍」と題し、パネルディスカッションを行う「川崎市IR説明会」を開催いたします。

【日時】平成25年3月21日(木) 16:30～17:45(受付開始 16:00)
【場所】都市センターホテル(日本都市センター会館内 東京都千代田区平河町2-4-1)5階オリオン
【URL】<http://www.city.kawasaki.jp/230/page/0000018399.html>

平成25年度予算案について

川崎市では、「川崎再生フロンティアプラン」第3期実行計画と「第4次改革プラン」の最終年次の予算として、平成25年度予算案を編成しました。

平成25年度予算は、「川崎再生」から「新たな飛躍」に向けて着実に進んできた歩みを今後も続けることなく、さらなる努力を重ねながら、本市の持続的な発展のための取組を進めていく予算であるという意味を込めて、「新たな飛躍」予算としました。

【URL】<http://www.city.kawasaki.jp/230/page/0000045088.html>

知ってる？かわさき！ このコーナーは毎回、川崎市に関するマメ知識やお役立ち情報をお伝えします。

川崎市市民ミュージアム ～昔の暮らし今の暮らし2013～

- ・ 原始古代から現代まで、連続と営まれてきた人々の暮らしを、生活道具の移り変わりから振り返る展覧会です。
- ・ 本展ではいろいろな生活道具を紹介するとともに、実際に道具に触れることができる体験コーナーを設置します。また今回は、特集展示として「旅」をテーマとした展示も行います。料金は無料です。

【開催日】平成25年1月26日(土)～3月31日(日)
【開催場所】川崎市市民ミュージアム 企画展示室2
【開始時間】9時30分～17時(入館は16時30分まで)
【アクセス】東急東横線・目黒線「武蔵小杉駅」、JR湘南新宿ライン・横須賀線「武蔵小杉駅」よりバスで10分程度
【関連企画】「昔のあそび体験」
日時：会期中の日曜・祝日 13時～15時
会場：中庭
内容：コマやけん玉の遊び道具や井戸ポンプの体験ができます。
申込：当日自由参加
【URL】http://www.kawasaki-museum.jp/disclav/exhibit/exhibition_de.php?id=248

IR専用ページ：
<http://www.city.kawasaki.jp/shisei/category/47-4-1-0-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

川崎市 投資家情報 検索 で検索

川崎市IRサイト

川崎市 KAWASAKI CITY

トップ 暮らし・手続き お知らせ イベント・募集 市の施設 川崎の魅力 みどころ 事業者 就労支援情報 市政情報

現在位置: [トップページ](#) > [市政情報](#) > [市の財政・市債・行財政改革](#) > [市債・宝くじ・資産](#) > [川崎市投資家情報\(IR\)](#)

川崎市投資家情報(IR)

- お知らせ
- IRニュース
- ごあいさつ
- 市債発行計画
- 市債発行予定・実績
- 個人投資家の皆様へ
- 市政・財政情報
- 市債に関する会合
- IRポリシー

市債・宝くじ・資産

川崎市投資家情報(IR)

- 川崎市宝くじ情報
- 川崎版PRR戦略かわさき資産マネジメントの取組
- 川崎市のペイオフ対策

サンキューコールかわさき
044-200-3939
(市政に関するお問合せ・ご相談)
よくある質問(FAQ)

電子申請(ネット窓口かわさき)

市役所
市役所案内

お問い合わせ先 川崎市財政局財政部資金課
TEL : 044-200-2182・2183
E-mail : 23sikin@city.kawasaki.jp